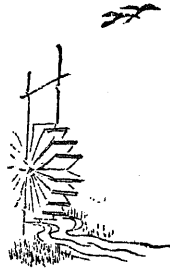


足袋穿いて彼岸参りの初御堂  
埋火の消えたる夜半の寒さ哉  
手すれたる點字の板や身にしみる  
かけそこねく足のこぼせかな  
點字やめて手をあぶりたる火鉢哉  
ながし來て火を掘り立てる炬燵哉  
梅の花ごんな色して香るやら  
五人して炬燵争ふ一間かな



大 傳 嘉 喜 近 小 伊  
島 田 平 作 藤 山 比  
う め 女

女子の貞操を責むるに急なる日本は、遂に男子の貞操を忘れたるが如し。男子に對する貞操は、女子唯一の婦徳として、授けらる。而も女子に對する唯一の男徳を男子に授けざるは何ぞや。妻となりての義務は、女學校脩身の唯一の課程なり、併も男子の學校に於て夫としての義務を授くるを聞かず。吾は、男女道徳の標準此の如く、均衡を得ざるものあるを見ず。

男子の貞操

説林

